

る。これらは内科的治療では進行性に増悪し数年で寝たきりとなる。我々のこうして死亡した10例の剖検所見は、Olszewski 1962 の Subcortical arteriosclerotic encephalopathy (Binswanger's type) と云う疾患の病理像と一致していた。NPH とは病態が異なるが、脳室拡大による周囲白質への影響を軽減するため、1981年以來、臨床的 Binswanger 病の35例にシャント手術を行った。改善度(%)を高度、中等度、軽度、不変とすると、歩行障害改善度は 45.7, 5.7, 28.5, 11.4, 8.5, 痴呆改善度は 5.7, 11.4, 40.0, 34.2, 8.5, 尿失禁改善度は 54.2, 8.5, 8.5, 20.0, 8.5, これらの総合改善度は 48.5, 11.4, 17.1, 14.2, 8.5 であった。本法はこの疾患の基礎的病態である大脳の細動脈硬化症を治療しているわけではなく、その効果には限界があるが、試みてよい治療法と考える。

A-80) 真性後頭動脈瘤の1例

西澤 義彦・七海 敏之 (岩手医科大学)
 鳴海 新・金谷 春之 (脳神経外科)

外頸動脈系分枝に認められる動脈瘤の多くは外傷によるとされ、真性動脈瘤の発生は希である。今回我々は後頭動脈の真性動脈瘤を経験し、病理学的に mucoid degeneration の所見を認めたので若干の考察を加え報告する。

症例は22才男性、生後11カ月で VSD の根治手術を受ける。昭和63年7月頃から後頭部の腫瘍を自覚していたが放置、平成元年2月に突然後頭部痛が出現したため当科受診。脳血管撮影にて左後頭動脈に紡錘形の動脈瘤を認めた。動脈瘤は動脈周辺部組織と癒着していたが血管分岐部とは関係なく、本幹自体が紡錘状肥大していたため、trap し全摘を行なった。

病理学的所見はアテローム硬化性変化や血管炎症変化はなく、肥厚した内膜に alcian blue 陽性の mucoid 物質を認めた。

A-81) 脳梁上部に発生した末梢性前大脳動脈瘤の4例

相場 豊隆・小泉 孝幸 (桑名病院)
 佐々木 修 (脳神経外科)
 小池 哲雄・田中 隆一 (新潟大学脳研究所)
 (脳神経外科)

脳梁上部の pericallosal artery に発生した末梢性前大脳動脈瘤 (distal ACA an.) の4例を経験した。症例は31~61才の男性3例、女性1例である。2例に高血圧の既往があるが、外傷や全身感染症の既往はない。全

例 SAH で入院しているが、うち2例では distal ACA an. は未破裂であった。直達手術は破裂動脈瘤の2例で施行された。血管撮影では2例に Bihemispheric Accessorial ACA, 1例に Azygos ACA, 1例に同側 callosomarginal artery の A₂ 起始部からの分岐を認めた。動脈瘤の形状は3例は saccural で1例は irregular であった。また1例で前交通動脈に、1例で両側中大脳動脈に動脈瘤の合併を認めた。

脳梁上部の pericallosal artery の distal ACA an. は過去11例報告されており、うち6例で ACA の分枝異常、3例で動脈瘤、AVM の合併を認めている。それらの記載とあわせこの部位の動脈瘤は高率に ACA の分枝異常、多発性脳動脈瘤などの血管奇形を伴うことが推測された。

A-82) 脳底動脈發育不全を伴った後交通動脈瘤の1例

牧野 憲一・高村 春雄
 後藤 聡・佐々木 寛 (旭川赤十字病院)
 鈴木 望・藤田 力 (脳神経外科)
 村田 純一・蔭山 博司

後交通動脈に出来る動脈瘤の多くは内頸動脈との分岐部に出来るものであり、他の部に出来ることは極めて稀である。今回我々は、脳底動脈の發育不全に伴い、両側の後交通動脈が発達し、その発達した後交通動脈の中央に出現した動脈瘤の1例を経験した。症例は62歳女性。突然の頭痛嘔吐にて発症し直ちに当院救急外来を受診した。来院時、意識は清明で神経学的異常所見は存在しなかった。頭部 CT scan でくも膜下出血と診断した。脳血管撮影では両側椎骨動脈の発達が悪く、左椎骨動脈撮影にて右椎骨動脈は造影されるが、脳底動脈は極めて細く僅かに造影されるのみであった。両側後交通動脈は fetal type で發育がよく、これらを介して両側後大脳動脈のみならず、両側上小脳動脈も造影されていた。左後交通動脈の長さは通常よりも長く、その中央部に屈曲しており、その部に動脈瘤を認めた。このため同日 trans-sylvian approach にて脳動脈瘤 clipping 術を施行した。

A-83) 回転性眩暈にて発症した多発性 distal PICA 脳動脈瘤の1治療例

小穴 勝麿・真瀬 智彦 (八戸赤十字病院)
 大和田雅信 (脳神経外科)
 金谷 春之 (岩手医科大学)
 (脳神経外科)

Distal PICA 動脈瘤は佐野らによれば全脳動脈瘤 1480 個中5個、0.3%に、山浦らによれば椎骨脳底動脈瘤 124